

令和5年度　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

坂戸市立上谷小学校	
学校名	坂戸市立上谷小学校
実施日	令和6年2月29日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価　A:よくできている　　B:概ねできている　　C:あまりできていない　　D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・単級ならではの特色ある教育（縦割り活動や各種体験活動）が盛んである。 ・管理職のリーダーシップのもと、組織的・計画的に学校運営がなされている。 ・4月に経営方針を伝えており、それに向けて子供の指導にあたっている。 ・具体的な行動計画がいまいちよく分からないので、職員会議で意見がわれた時などに、その都度管理職の方から経営ビジョンの提示があると、そのビジョンにそって議論も進めやすいと思う。	B	・学校づくりのビジョンが下に伝わっていると思う。 ・学校の教育方針や教育活動について保護者は分かりやすく伝えているとの高い評価である。あとは管理職から示されたビジョンを個々の教員が主体的に取り組むことも必要と考える。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	・年度初めの防火扉の訓練は、本番を想定した訓練となっている。水害訓練など、毎年地域の実態も考えながら改善を図っている。 ・災害・事故やトラブルに対し、避難訓練を行いながら研修を重ねている。 ・地震や大雨などのケースに応じた避難訓練や、定期的行われるシェイクアウト訓練などは、児童や教員のためになっている。 ・もっと災害が起きた時の起こりうる危険などの想定がまだ弱い。（けが人が出たらどうするか等）もっと踏み込んだ訓練を行ってもよい。	B	・災害、事故、トラブル等は瞬時に判断が必要となるので繰り返しの訓練は重要である。想定された訓練かできていることはよい。 ・学校は児童にとって、安全安心な場所であり、その為には様々な状況を想定しての日頃の訓練と職員間の意志疎通が大切である。 ・かなり訓練がされているようですが、まだ改善の余地がありそうだ。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（市共通項目）	B	・会議や行事の精選や、日課の改善、空き時間の確保を通して勤務時間内に業務が終わるよう工夫されてきている。充電年休やノー残業デー、留守番電話の設定など、働きやすい職場づくりが推進されている。 ・会議が少ないのがいい。 ・充電年休を入れたことで、多少休みやすくなった。 ・時間外勤務となりやすい朝の登校への対応や昼休みの休憩時間の確保などは課題が残る。	B	・教員も労働者であるので、業務の見直し等でできるだけ無理のないように。人員不足は、慢性的な状況だと思うので効率的な対応をしてほしい。 ・少ない職員数ならではの大変さがあると思われる中、働き方について工夫し、努力している様子がうかがえる。 ・学校は自分たちで行える努力は最大限されていると評価する。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。（市共通項目）	B	・一人一授業や研究成果を発表する機会をもち、教員が学び続ける風土がある。 ・学び合いを取り入れた授業は単元に1度程度ではなく、ほとんどの授業で適切な言語活動を設定した展開が行われている。 ・夏季研修で国・県の学習状況調査や入間学力テストの結果から児童の実態を把握し、指導法を改善するなどの努力をしている。 ・県学力の結果に対する方策を具体的に決められるともっとさらによくなる。 ・学び合いを積極的に取り入れているかは、教員によって差がある。	B	・教員の方が努力して内容の濃い授業を行う姿勢がうかがえる。 ・学力向上に向けた意識や改善の努力は高く評価できる。現状分析等も行われているように思う。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・一時間一時間きっちり行っている。普段の授業から自己肯定感が高まるように誰の意見も平等に、大切にしている。 ・教員の思いを聞き取り、児童の実態を踏まえ、校長先生の指導のもと、道徳重点目標を定め、共通理解を図っている。 ・授業展開を工夫したり、個人内評価を行ったりして、豊かな心の育成に努めている。 ・授業参観で道徳の授業公開が行われている。	A	・道徳教育は、子ども達の未来の成長に欠かせない教育だと思うので、よく取り組んでいると思う。 ・保護者アンケートからも児童は学校に行くのを楽しみにしていることがわかる。児童の自己肯定感が高まるよう大切にしていると評価する。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。（市共通項目）	B	・生活目標アンケートの結果から、あいさつや丁寧な言葉遣いができていると回答する児童が増えている。また、宿題の提出率も上がり、一部の課題が終わらない児童には補習を行うなど、基礎学力の定着に尽力している。 ・児童は落ち着いた授業に臨み、けじめのある態度が見られる。 ・時と場に応じた丁寧な言葉遣いや友達の名前の呼び方、話し方に課題あり。 ・自分から進んで挨拶をすることにできない。	B	・落ち着いた授業態度で臨んでいると思う。 ・どの学年も落ち着いた雰囲気の中、学習に取り組んでいる。 ・児童の間に格差があるようなので、頑張っていたきたい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。（市共通項目）	A	・倫理確立委員会や不祥事防止チェックリストを定期的に行うことで、教員の事故防止に対する意識が高まっている。また、学級での問題を職員室で話合ったり、相談し合ったりする風土があり、風通しのよい雰囲気が醸成されている。 ・みんなで助け合う風通しのよい雰囲気がある。 ・定期的な倫理確立委員会により、自分の普段の行動を振り返る時間が設けられているのでいい。	A	・教職員の方々が重要項目の意識が高く、よく対応されていると思う。 ・教員の意識改革うまくいっているようで、評価に値すると考える。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にせる態度で接している。	B	・児童が安心して登校できる環境を築くために教員が尽力し、温かい学級風土がある。 ・生徒指導会議を通して情報交換を行うことで、不登校児童への支援方針を共通理解できている。 ・個人面談や保護者会をすることで、保護者との連携を密に図っている。 ・個に応じた支援に努めている。 ・登校に至らない不登校児童がいる。定期的なケース会議を増やすとよい。	B	・全体的には、よい感じで対応できていると思う。 ・不登校児童には大変だが、各機関と連携し、児童の将来のため、粘り強く対応をお願いしたい。 ・すべての教職員が個々を大切にせる支援ができるようになるとういと思う。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・通常学級の教員が特学の授業をチームティーチングするときがあるため、教員がよく関わることができている。 ・定期的に校内就学支援委員会を開催し、特別支援教育体制を整えている。 ・支援員の増やしていただき、以前より手厚くなった。 ・特別支援教育に関する研修をより行っていくべきだと感じる。	B	・昔から比べると特別支援学級への取組が手厚くなったと感じた。 ・一人ひとりに丁寧な授業が行われていると感じる。 ・特別支援教育に対する教員研修が効果的に行われることを希望する。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・安全点検を定期的に実施できている。危険箇所はその都度修理できている。廃棄備品等の備品の整理も年々進んでいる。 ・たてわり清掃を機能させ、児童とともに教員も清掃指導する中で、掃除用具の整備や危険箇所の把握等に努めている。 ・学年それぞれで様々な掲示がされていて温かみを感じる。 ・備品と台帳が合わないところがある。台帳の整理が必要だと思う。 ・児童の清掃力の低下を非常に感じる。	B	・清潔にされている。5S活動進めるとより教育的な面もできと思う。 ・トイレや廊下等、いつもきれいになっている。 ・家庭との連携も必要と考える。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。（市共通項目）	B	・ホームページやマ・メール、入学説明会の資料、学校・学年だよりを通して開かれた学校づくりを推進している。 ・個人面談、授業参観・保護者会、教育相談日の設定により保護者と関わる機会が多くある。 ・学校応援団を募り、体験活動にご協力いただいた。 ・防犯に関する情報をすぐに、メール等で知らせている。	B	・学校だよりをいただき、情報が入ってくるのでありがたい。民生委員との連絡会を開催してほしい。 ・開かれた学校という印象があり良いと思っている。自己評価で課題と感じている部分の改善をお願いしたい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・読み聞かせボランティアや坂戸マジック、栄養大の学生など、地域の人材を積極的に活用している。また、家庭・地域と連携して、放課後学習なども充実させようとしている。 ・子育て支援課や児童相談所とのケース会議などを行うことで、課題のある児童への支援体制を整えることができている。また、防犯パトロールの方に感謝する会をもち、協力体制ができている。 ・お話パートやボランティアなどと連携し、諸活動を行っている。 ・地域の人材を授業等に活用することに課題が残る。	A	・地域の人材を活用することで教員の負担軽減ができればなおよい。 ・地域の人材活用がうまくされていると評価できる。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	・小中連絡会をはじめとして、定期的に情報を定期的に伝えあえている。 ・小中連絡会を1学期に行うことで、卒業生の様子を確認し、本校の課題を日々の指導に生かすことができている。 ・住吉中の先生に5・6年生の授業を行っていただくことで、進学に対する児童の不安を軽減することができている。 ・小中連携で意見交換する機会がありよい。 ・共通のルールづくりや、スタディーウィークの活用などでは課題が残る。	B	・小中の連絡がよくできていると思う。 ・努力されている様子がみてとれる。さらに連携を推進していただきたい。